

漢方薬の都 — 「安国」

安国市の位置：

安国市は河北省の南部にあり、北京、天津と河北省の省都石家荘の三角地帯に位置します。首都北京からは 250 km、河北省都の石家荘からは 110 km の距離にあります。

北京からは、車で 4 時間ほどで到着します。

総面積は 113 万 k m²、総人口 40 万人です。

安国市の歴史：

前漢初め高祖劉邦が安国の名称を用い、武帝の時代に「安国県」が置かれました。

現在まで時代ごとに改称を重ね 1991 年に安国市と制定されました。

安国市の薬業は、約 1000 年前に建立された「薬王廟」を中心に発展しました。ここには後漢の光武帝の天下統一を助けた

雲台二十八将のひとりである「邳彤（ひとう）」が薬王として祀られています。



漢方薬の香り漂う安国市：

安国市は中国で最大の漢方薬の薬材集散地として「薬都」「天下第一薬市」と呼ばれています。漢方薬を積んだトラックが行き来し、辺り一帯はその香りで充満しています。

年に 1 度、中国医薬産業博覧交易会が行われ、国内だけでなく 20 カ国以上の国から多くの人々が安国市を訪れます。



安国市の産業：

中国最大の漢方薬専門の市場での年間取引高は 45 億元に達します。生産・加工業もさかんで、10 万畝以上の土地で栽培されています。

漢方薬以外の主要な生産物として小麦、トウモロコシ、落花生、リンゴ等があります。



安国市の今：

街を歩くと、薬局や薬の原材料が売られる卸売り店などが軒を並べている様子がまず目に入ります。街の中心は自転車で十分に回れるほどの規模でタクシーや路線バスはあまり走っていません。中心から少し離れるとすぐに農村地帯が広がるのどかな場所です。中心地は再開発中で、高層住宅も各地で建設中となっていました。

漢方薬の取引は午前で終了するため、午前と午後では交通量やにぎやかさが違います。写真の通り「薬王廟」の他に「中薬文化博物館」「薬都公園」といった漢方薬に関する場所が見所となっています。



薬の取引が行われる市場



安国市の北東に位置する薬材専門市場「東方薬城」



薬王廟 薬王と中国の十大名医が祀られている



薬都公園にある李時珍（『本草綱目』作者）の像



漢方薬の材料を取り扱う小売店



中国医学の発展、漢方薬の知識が学べる博物館